

| | | |
|---|--------------------|-----|
| 科目名称： | 英語コミュニケーションⅡ（美術学科） | |
| 担当者名： | 藺森 喜美 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 基礎教育科目 | 演習 | 1 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| 英語コミュニケーションⅠで学んだ発音・語彙・文法を復習しながら、日常英会話の基礎を身につけます。旅の様々な場面別に重要フレーズを学習し、コミュニケーションに必要な英語力を身につけていきます。また、音声を聞き取り、ペアワークで繰り返し練習することにより、英語の正しい発音やリズム、イントネーションを身につけていきます。 | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| ①簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。②CD等を聞いてリスニング力を高め、旅の様々な場面での話題や簡単な説明・指示を理解することができる。③日常生活に関することや、興味・関心のあることについて自分の考えを述べるができる。④身近なことについて英語で会話することができる。⑤興味・関心のあることや自分のことについて簡単な文を書くことができる。 | | |

| 基礎教育科目 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|--------|---|------|
| DP(1) | 建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。 | ○ |
| DP(2) | 優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。 | |
| DP(3) | 多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。 | |
| DP(4) | 学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身につけている。 | |

| 評価方法／ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 全学DP(1) | 50 | 20 | 10 | 20 | 100 |
| 全学DP(2) | | | | | 0 |
| 全学DP(3) | | | | | 0 |
| 全学DP(4) | | | | | 0 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） |
|--------------|--------------------------|
| なし | |
| | |
| | |
| | |

| 評価ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|----------|--|--|---|--------------------------------|
| 読む | まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。 | 簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 | 簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。 | 簡単な文章や表示・掲示を理解することがほとんどできない。 |
| 聞く | 日常生活での情報・説明を聞きとったり、まとまりのある内容を理解することができる。 | 日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 | ゆっくり話してもらえば、身近なことに関する話や指示を理解することができる。 | 簡単な文や指示を理解することがほとんどできない。 |
| 話す | 日常生活での出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。 | 日常生活で簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べるることができる。 | 身近なことについて簡単なやりとりをしたり、自分のことについて述べるることができる。 | 簡単な文を使って話したり、質問をすることがほとんどできない。 |
| 書く | 日常生活での話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 | 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 | 自分のことについて簡単な文章を書くことができる。 | 簡単な文やメモを書くことがほとんどできない。 |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間(分) |
|---|---|-------------|
| 第1回 教科書 Chapter 7 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。 | Chapter7 Vocabulary, Phrase1について調べる。 | 40分 |
| 第2回 教科書 Chapter 7 Phrase 2,3 Chapter 8 Warm-up, Phrase1, 2 ディスカッションをしながら進める。 | Chapter7Phrase2, 3の英文を3回音読し内容を掴む。Chapter8 Phrase1, 2について調べる。 | 40分 |
| 第3回 教科書 Chapter 8 Phrase 3 Chapter 9 Warm-up, Phrase1, 2 ディスカッションをしながら進める。 | Chapter8Phrase3の英文を3回音読し内容を掴む。Chapter9 phrase1, 2について調べる。 | 40分 |
| 第4回 教科書 Chapter 9 Phrase 3 Chapter 10 Warm-up, Phrase1, 2 ディスカッションをしながら進める。 | Chapter9 Phrase3の英文を3回音読し内容を掴む。Chapter10 Phrase1, 2について調べる。 | 40分 |
| 第5回 まとめ Chapter 7-10の会話文のロールプレイ。英会話トレーニング Scene 10 レストラン1-10 | Chapter 7-10の復習 | 120分 |
| 第6回 教科書 Chapter 10 Phrase 3 Chapter 11 Warm-up, Phrase1, 2 ディスカッションをしながら進める。 | Chapter10 Phrase2, 3の英文を3回音読し内容を掴む。Chapter11 Phrase1, 2について調べる。 | 40分 |
| 第7回 教科書 Chapter 11 Phrase 3 Chapter 12 Warm-up, Phrase1, 2 ディスカッションをしながら進める。 | Chapter 11 Phrase2, 3の英文を3回音読し内容を掴む。Chapter 12 Phrase1, 2について調べる。 | 40分 |
| 第8回 教科書 Chapter 12 Phrase 3 Chapter 13 Warm-up, Phrase1, 2 ディスカッションをしながら進める。 | Chapter 12Phrase2, 3の英文を3回音読し内容を掴む。Chapter 13 Phrase1, 2について調べる。 | 40分 |
| 第9回 教科書 Chapter 13 Phrase 3 Chapter 14 Warm-up, Phrase1, 2 ディスカッションをしながら進める。 | Chapter 13Phrase2, 3の英文を3回音読し内容を掴む。Chapter 14 Phrase1, 2について調べる。 | 40分 |
| 第10回 教科書 Chapter 14Phrase 3 Chapter 15 Warm-up, Phrase1, 2, 3 ディスカッションをしながら進める。 | Chapter 14Phrase2, 3の英文を3回音読し内容を掴む。Chapter 15 Phrase1, 2について調べる。 | 40分 |
| 第11回 まとめ Chapter 11-15の会話文のロールプレイ。英会話トレーニング Scene 10 レストラン11-22 | Chapter 11-15の復習 | 120分 |
| 第12回 英会話トレーニング Scene 10 レストラン23-31 | 英会話トレーニング Scene 10 レストラン11-22の筆写と暗記 | 40分 |
| 第13回 英会話トレーニング Scene 11買い物 1-10 | 英会話トレーニング Scene 10 レストラン23-31の筆写と暗記 | 40分 |
| 第14回 英会話トレーニング Scene 11買い物 11-22 | 英会話トレーニング Scene 11買い物 1-10 の筆写と暗記、自作会話文の作成 | 60分 |
| 第15回 英会話トレーニング Scene 12 観光案内所 1-5 自作会話文のプレゼンテーション | 英会話トレーニング Scene 11買い物 11-22 の筆写と暗記 自作会話文のプレゼンテーション練習 | 120分 |

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、指定範囲の音読練習をし、解答や筆写をノートにまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト 20%、課題 10%、授業中の言語活動の積極的参加 20%

課題に対するフィードバック

小テスト、課題プリントは評価し返却する。定期試験は、希望者に返却する。フィードバックシートで学修成果を伝える。

教科書・参考書

Simply Traveling Communication Anytime, Anywhere! (金星堂)